

平成29年度 経済委員会 県外視察報告書

1 参加者

岩佐義弘（委員長）、来代正文（副委員長）、岡田理絵、岡本富治、寺井正邇、岩丸正史、杉本直樹、高井美穂、長池文武

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月2日（水）	農業遺産と観光産業について（熊本県阿蘇市）
	農地・農業用施設の復旧状況について（熊本県阿蘇市）
8月3日（木）	栄養塩対策（熊本県農林水産部）（熊本県熊本市）
	株式会社産学連携機構九州（福岡県福岡市）
8月4日（金）	博多織DC（福岡県福岡市）

3 調査目的及び視察概要

(1) 農業遺産と観光産業について（熊本県阿蘇市）

(調査目的)

県西部のにし阿波地域では、「食と農の景勝地」及び「日本農業遺産」に認定されたことを機に、インバウンドに対応した情報発信を行い交流人口の拡大につなげるとともに、傾斜地農法の世界農業遺産認定を目指しており、農業と観光が融合した地域活性化に向けた取組を行っている。

そこで、観光地としても全国的に有名な阿蘇地域において、農業遺産を活用した交流人口拡大の取組について調査を行うものである。

(視察概要)

農業遺産を活用した交流人口拡大の取組についての説明と現地視察を行いました。



(2) 農地・農業用施設の復旧状況について（熊本県阿蘇市）

（視察目的）

昨年発生した熊本地震を教訓に、本県では津波浸水被害に対応した徳島県農業版BCPに新たに直下型地震編を追加したところである。そこで、被災して1年余り経過した現在の農地やため池などの農業用施設の復旧と営農再開の状況について調査を行うものである。

（視察概要）

農地やため池などの農業用施設の復旧と営農再開の状況についての説明を受けた後、復旧中の現場を視察しました。



(3) 熊本県農林水産部 栄養塩対策について（熊本県熊本市）

（視察目的）

徳島県の特産品である鳴門わかめは、近年、色落ちや生育不良等によって生産量が減少していることから、県においては、栄養塩調査や品種改良に取り組んでいる。そこで、研究の参考とするため熊本県での藻類養殖の状況について調査を行うものである。

（視察概要）

熊本県での藻類養殖の状況についての説明を受けました。



(4) 株式会社産学連携機構九州 農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム
(福岡県福岡市)

(視察目的)

徳島県では、輸出が「利益の源泉」となるべく、県産食材のさらなる輸出拡大を目指し、「販売ルートの強化」や「新たなマーケットの開拓」等に取り組んでいる。

このような中、施策の参考とするため、産学連携機構九州がコンセプトとしている、農林水産物の輸出促進に向け「生産から流通そして消費」を一連のプロセスとして捉え課題解決に当たる取組について調査を行うものである。

(視察概要)

農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォームの事業概要等についての説明を受けました。



(5) 博多織DC (福岡県福岡市)

(視察目的)

本県では、伝統工芸品として「阿波正藍しじら織り」が経済産業大臣の指定を受けており、その「技」が継承されている。また、近年では「阿波藍」が「ジャパンブルー」として世界から注目され、議会においても「とくしま藍の日を定める条例」を制定し、7月24日を「とくしま藍の日」、7月を「とくしま藍推進月間」と定め、藍に関する文化の継承と産業振興を図り、国内外に藍の魅力を発信している。

そこで、施策の参考とするため、博多織DCの、伝統工芸の伝承にとどまらず、「創造と自立」というコンセプトのもと、世界に通用する博多織クリエイター、プロデューサー育成の取組について調査を行うものである。

(視察概要)

博多織DCでの博多織クリエイターやプロデューサー育成の取組についての説明を受けた後、施設を見学しました。

